

| | | | | | |
|---|---|------|--|--|----------------------------------|
| 石川工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和02年度 (2020年度) | 授業科目 | 歴史 I I |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | 20022 | | 科目区分 | 一般 / 必修 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 履修単位: 1 | |
| 開設学科 | 建築学科 | | 対象学年 | 2 | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 『高等学校世界史A新訂版』(清水書院) 『新選日本史B』(東京書籍)、『グローバルワイド最新世界史図表』(第一学習社) | | | | |
| 担当教員 | 永井 隆之 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の災害の対策と教訓を、過去の出来事から学び取れる。 2. 人類の多様な進化の中から最終的にホモ・サピエンスだけが繁栄できた理由について理解できる。 3. 人類拡散の原動力になった諸条件について理解できる。 4. 人類が日本列島に到達できた契機について説明できる。 5. 農耕がひろがるまでの人類の営為について理解できる。 6. 貨幣が人間をどのように変えたのか理解できる。 7. 人類の原始から現代までの社会変化を支えた仕組みについて見通すことができる。 8. 人類の未来について歴史を踏まえ展望することができる。 9. 現代の民主化運動の発展の具体相を理解することができる。 10. 第二次大戦中の大量破壊兵器の開発と使用の過程とその世界への影響について理解することができる。 11. フェミニズムの歴史を踏まえ、現代の文化から社会的な性の在り方について議論できる。 12. 現代世界の諸問題を自らの問題として考察する力を得る。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安(優) | | 標準的な到達レベルの目安(良) | | 未到達レベルの目安(不可) |
| 評価項目1 項目1,2,3,4,5,6,7, | 歴史的事象について読解・表記・説明でき、それらを自分の問題として考察できる | | 史的事象に関する語句を正しく読解・表記し、意味を説明できる | | 歴史的事象に関する語句を正しく読解できない。意味が説明できない。 |
| 評価項目2 項目8 | 世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得、地図上に表記できる | | 世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得る | | 世界史・日本史で学ぶ国や地域の名称を知らない |
| 評価項目3 項目9,10,11,12 | 現代の諸問題を自らの問題として考察する姿勢をもち、歴史的事象について適切な資料を調査収集し、必要な情報を取捨選択して私見を交えず客観的にまとめ、その内容について考察したことを論理的に表現・表記できる | | 歴史的事象について考察したことを論理的に表現・記述できる | | 歴史的事象についての知識がない |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 本科学習目標 1 本科学習目標 3 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | これからの技術者は、多様化する現代社会に対応し国際社会や自然環境への理解を深め、幅広い視野を持つ必要がある。そこで本授業では、人類の歴史を俯瞰し、社会を構成する仕組みについて理解を深め、それに基づいて現代の諸問題を主体的に考察し、自らの考えを論理的に表現する基礎学力を養うことを目標とする。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 到達目標を達成するため、随時、課題を出す。 | | | | |
| 注意点 | <p>【評価方法・評価基準】</p> <p>成績の評価基準として50点以上を合格とする。試験は中間試験、期末試験の2回行う。課題は随時出される。成績評価の割合は以下の通り。</p> <p>前期中間試験(40%)、前期末試験(40%)、課題(20%)</p> <p>事項の暗記に終始せず、出来事の成り立ちやそれぞれの影響関係についてよく整理しておくこと。</p> <p>また、それを論理的に表現できる力を身につけること。</p> <p>課題は必ず提出すること。</p> | | | | |
| テスト | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | 100年前のパンデミック スペイン風邪 | 現在、新型コロナウイルス感染症が世界的なパンデミック(爆発的感染)の状況にある。過去にも、パンデミックは発生していた。今回の新型コロナウイルスへの対策と教訓を、過去のパンデミックから学び取れる。 | |
| | | 2週 | 人間らしさとは何か? その1 ～ホモ・サピエンス誕生～ | 我々に至るまで人類はどうやって進化してきたのか。なぜ最終的にホモ・サピエンスだけが繁栄できたのか。その起源について知見を得る。 | |
| | | 3週 | 人間らしさとは何か? その2 ～ホモ・サピエンスとネアンデルタール人～ | かつてホモ・サピエンスには屈強なライバル・ネアンデルタール人という人類がいた。ネアンデルタール人がなぜ姿を消し、ホモ・サピエンスだけが栄えたのか、その理由について、理解を深める。 | |
| | | 4週 | 人間らしさとは何か? その3 ～グレートジャーニー(世界拡散)～ | アフリカで生まれた私たちの祖先は、6万年前に故郷を離れ、驚異的なスピードで世界に広まっていった。その原動力は新たに発明された道具だった。それはどのような道具が人類の世界拡散に約だったのか、その具体相を知る。 | |
| | | 5週 | 人間らしさとは何か? その4 ～サピエンス、日本列島に到達～ | なぜホモ・サピエンスだけが日本列島に到達できたのか。サピエンスが世界の隅々にまで行き繁栄した理由について理解を深める。 | |
| | | 6週 | 人間らしさとは何か? その5 ～農耕の始まり～ | 農耕の始まりは人類史上最大の革命にして最大の謎。主食の一つである小麦。それは当初、全く栽培に適していなかった。それでも私たちの食を支える農耕はなぜ始まり、そして広まったのか。農耕の始まりは人類の長い試練の始まり。その実像について知見を得る。 | |

| | | | |
|------|-----|--|--|
| 4thQ | 7週 | 人間らしさとは何か? その6 ～貨幣の誕生～ | 6000年以上前、世界で最初の都市が誕生した。その原動力とは貨幣。その力は人間の脳そのものを変え、現代文明を築く原動力になった。お金こそが人間を人間にした。 それでは一体、お金は人間をどう変えてきたのか。その具体相と仕組みを理解する。 |
| | 8週 | 人間らしさとは何か? その7 『サピエンス全史』の描く人類の歴史、そして未来～ | 人類の誕生から未来までをたどり、現代を読み解く本が登場。ユヴァル・ノア・ハラリ著『サピエンス全史』。私たちはどこから来て、どこへ行くのか。人類は幸福になったのか。私たちの幸福を探るヒントは人類の歴史に隠されている。本書から歴史を俯瞰する考え方を学ぶ。 |
| | 9週 | 人間らしさとは何か? その8 ～人類の未来像『ホモ・デウス』に学ぶ～ | ユヴァル・ノア・ハラリ『ホモ・デウス』から学び、テクノロジーの急激な発展によって、人類が新たに驚異的な力を手に入れる可能性が高まる中、予想される社会像について考えを深める。 |
| | 10週 | 現代史から学ぶ その1 | 天安門事件は、1989年6月4日に起こった事件。天安門広場は中国の象徴的な場所。ここにかつて学生や市民が民主化を求めて集結し、デモを行った。これに対し、軍隊が武力行使し、多数の死傷者を出した。なぜこのようなことが起きてしまったのか。このことを当時の世界情勢、中国の現代史から理解する。前編 |
| | 11週 | 現代史から学ぶ その2 | 上記の後編。この事件にアメリカや日本はどうかかわったのか、そしてこの事件は現在の世界にどのような影響を与えたのか、考えを深める。 |
| | 12週 | 現代史から学ぶ その3 | 第二次大戦時、マンハッタン計画と呼ばれた原爆開発。アメリカの極秘プロジェクトといわれてきた。しかし近年の研究でイギリスの深い関与が指摘されている。ナチス・ドイツを率いるヒトラーやソ連率いるスターリンも原爆開発で凌ぎを削っていた。原爆投下をめぐる舞台裏で何が起きていたのか、その過程を理解する。前編 |
| | 13週 | 現代史から学ぶ その4 | 上記の後編。原爆投下を決定する過程から、これに関わった人々の考えを知ると同時に、その投下が世界をどのように変えたのか理解する。 |
| | 14週 | 現代史から学ぶ その5 | 戦後フェミニズムの歴史を振り返る。その上で、宮崎駿監督作品『魔女の宅急便』（1989年）を取り上げ、当時のあるべき女性像について検討し、現代との比較を行い、フェミニズムの課題について理解する。 |
| | 15週 | 後期復習 | 本学期に学んだ内容を概観できる。また、現代にあるモノの起源や社会問題の遠因を発見できる力を養える。さらに現代社会の特質や課題に関する主題について探究し、その成果を議論することを通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について歴史の観点から展望できる。 |
| | 16週 | | |

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 | |
|---------|---------|---------------------------------|---|---|-----|--|
| 基礎的能力 | 人文・社会科学 | 社会 | 地理歴史的分野 | 世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。 | 2 | |
| | | | | 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 | 2 | |
| | | | | 近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。 | 2 | |
| | | | | 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 | 2 | |
| | | | | 第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。 | 2 | |
| | | | | 19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 | 2 | |
| | 工学基礎 | 技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史 | 技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史 | 全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。 | 3 | |
| | | | | 技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。 | 3 | |
| | | | | 他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。 | 2 | |
| | | | | 他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。 | 2 | |
| 分野横断的能力 | 汎用的技能 | 汎用的技能 | 日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。 | 2 | | |
| | | | 円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。 | 2 | | |
| | | | 円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。 | 2 | | |
| | | | 他者の意見を聞き合意形成することができる。 | 2 | | |
| | | | 合意形成のために会話を成立させることができる。 | 2 | | |
| | | | グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。 | 2 | | |
| | | | 書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。 | 2 | | |

| | | | | | |
|-------------|--------|--------|--|---|--|
| | | | 収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。 | 2 | |
| | | | 収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。 | 2 | |
| | | | 情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。 | 2 | |
| | | | 情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。 | 2 | |
| | | | 目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。 | 2 | |
| | | | あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。 | 2 | |
| | | | 複数の情報を整理・構造化できる。 | 2 | |
| | | | 特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。 | 2 | |
| | | | 課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。 | 2 | |
| | | | どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。 | 2 | |
| | | | 適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。 | 2 | |
| | | | 事実をもとに論理や考察を展開できる。 | 2 | |
| | | | 結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。 | 2 | |
| | | | 周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 | 2 | |
| | | | 自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。 | 2 | |
| | | | 目標の実現に向けて計画ができる。 | 2 | |
| | | | 目標の実現に向けて自らを律して行動できる。 | 2 | |
| | | | 日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。 | 2 | |
| | | | 社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。 | 2 | |
| | | | チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。 | 2 | |
| | | | チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。 | 2 | |
| | | | 当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。 | 2 | |
| | | | チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。 | 2 | |
| | | | リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。 | 2 | |
| | | | 適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。 | 2 | |
| | | | リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている。 | 2 | |
| | | | 法令やルールを遵守した行動をとれる。 | 2 | |
| | | | 他者のおかれている状況に配慮した行動をとれる。 | 2 | |
| | | | 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。 | 2 | |
| | | | 自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。 | 2 | |
| | | | その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。 | 2 | |
| | | | キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。 | 2 | |
| | | | これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。 | 2 | |
| | | | 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。 | 2 | |
| | | | 企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。 | 2 | |
| | | | 企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。 | 2 | |
| | | | 企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。 | 2 | |
| | | | 企業には社会的責任があることを認識している。 | 2 | |
| | | | 企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。 | 2 | |
| | | | 調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。 | 2 | |
| | | | 企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。 | 2 | |
| | | | 社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。 | 2 | |
| | | | 技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。 | 2 | |
| 態度・志向性(人間力) | 態度・志向性 | 態度・志向性 | | | |

| | | | | | | |
|--|-----------------|-----------------|-----------------|--|---|--|
| | | | | 技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。 | 2 | |
| | | | | 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。 | 2 | |
| | | | | 企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。 | 2 | |
| | | | | コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。 | 2 | |
| | 総合的な学習経験と創造的思考力 | 総合的な学習経験と創造的思考力 | 総合的な学習経験と創造的思考力 | 公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。 | 2 | |
| | | | | 経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。 | 2 | |

評価割合

| | 試験 | 課題 | 合計 |
|---------|----|----|-----|
| 総合評価割合 | 80 | 20 | 100 |
| 基礎的能力 | 40 | 10 | 50 |
| 専門的能力 | 40 | 10 | 50 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 |